

新型コロナウイルス対策<特別版> 市・県・国連携して進めます。

医療機関等で勤務する医療従事者や職員に慰労金を支給する事業で、患者と接する業務にも関わらず、「賃貸借契約の事業は対象外」との理由で不支給となる事案があった。しかし、県・国への働きかけを通じて、「現場判断に委ねる」との国の方針を得ることができ、市として前向きに判断ができ、支給されることになった。縦割りの行政組織の中、議員は市・県・国を柔軟につなげることができます。その強みを活かして市・県・国の議員が連携し、迅速に着実に新型コロナ対策を進めます。

若さ・情熱・行動力

名古屋市会議員 **久田くにひろ**

立憲民主
RIKKEN MINSHU

名古屋市議会ニュース

Vol.8
2021年1月号

久田くにひろ プロフィール

昭和58年12月31生まれ。瑞穂区生まれ。
陽明小・汐路中・天白高を経て青山学院大学経済学部卒業、名古屋大学大学院経済学研究科修了。
不二家・京セラ(KDJ)で法人営業に従事。
財政福祉委員会、公社対策特別委員会所属。



逼迫する
医療体制の
拡充

**東部医療センター
新型コロナ専用病床
22床新設へ**

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、市立東部医療センターに、**22床のコロナ専用病床を本年度中に新設する**。名市大から医師や看護師の派遣を受け、コロナ感染で逼迫する市内の医療態勢の確保につなげる。市内の22病院で確保したコロナ病床は現在297床あるが、実際にすぐ使えるのは204床(12月18日現在)。名古屋民主市議団の働きかけで実現した。

業務
継続体制の
課題解消

**職員75名増員
保健センターの
体制強化へ**

自宅療養者・濃厚接触者の健康観察を担う保健センターの体制を強化するため、看護職等の職員75名の増員を決定。令和2年12月10日より実施。現職員は夜間帯や土日勤務しつつ、各区1名、中区3名の看護師を派遣し、区役所職員の応援も得ながら対応していたが、今後も感染収束の見込みが立たず業務継続体制に課題を抱えていた。

寄せられた地元の声を全て自分事として

「瑞穂区の声を市政に」

① 特別定額給付金が支給されない！ 不公平が解消されました

特別定額給付金で、受給資格の対象となる基準日の後に死亡した単身世帯のお年寄りの方が対象外となる問題で、名古屋市は対象外となった市内1,651世帯の各遺族に市独自で特別定額給付金を受給できなかった方1人あたり10万円を遺族の代表者に支給することを決めた。家族が複数いる世帯は死亡した家族の分も支給されるため、「単身世帯だけ受給できないのは不公平だ」と久田くにひろは地元の方から相談を受けていた。

問合せ先 **コールセンターまでご連絡ください**

Tel. 052-414-6765

受付時間(平日午前9時～午後5時30分)

(対象者) 申請期限の9月1日までに世帯員全員が亡くなったために受給できなかった方の遺族等の代表
(補助額) 亡くなった方1人につき10万円を名古屋市独自で給付
(申請方法) 広報なごや、名古屋市ホームページを参照ください

③ 新型コロナウイルス感染症の収束に向けて 皆様の声を市政活動に！ LINEからご連絡下さい

新型コロナウイルス感染拡大は、子ども達から学びの場を奪い、経済活動を停止させました。暮らしにもたらされた大きな苦境は未だ癒えることなく、新型コロナへの不安や社会の閉塞感が払拭されることはありません。このQRコードはLINE「久田くにひろ」公式サイトになっています。皆様の声を伺い、名古屋市政活動に活かしていきますので、是非ご意見をお寄せ下さい。

② 大規模災害時の 認知症の方の避難を どう支援していくのか？

地元の声を受けて、久田くにひろが所属する財政福祉委員会で「避難行動要支援者への対策」について質疑した。市内での避難行動要支援者対象者が59,848人いる中、町内会・自治会において避難行動要支援者の避難を支援する個別支援計画作成に取り組んでいる団体は16.6%に留まる。他都市では地域の方がケアマネジャーなどの専門職の協力を得て個別支援計画に関わっている事例もあり、福祉関係者等の協力を得ながら、地域住民と一体となって進めることが重要と久田くにひろは指摘。健康福祉局より「避難の実効性確保は喫緊の課題のため、ご指摘内容を踏まえ、検討していく。」こととなった。

LINEで
皆様の声を
ぜひお寄せ
下さい



地元ニュース

**山崎川のサクラを
更新します**

山崎川のサクラについて、令和元・2年度に行った樹木医の診断を踏まえて、石川橋から落合橋、「汐路桜ロード」、弥富公園「さくらのトンネル」のサクラ26本を撤去し、20本新植されることとなった。また、かなえ橋から右左田橋のサクラ147本については施肥を行う。令和3年1月下旬より施工。

新型コロナウイルスについて
医療の現場の声をお聞きました

森亮太氏×久田くにひろ 緊急対談



森亮太（医師）
プロフィール

医療法人八事の森理事長（杉浦医院院長）で久田くにひろ応援団長。1970年生まれ、1998年名古屋市立大学医学部卒。名古屋市立東部医療センターで外科医として勤務。2011年1月より杉浦医院院長に就任。診療以外に、野宿者の医療支援、外国人の医療相談などに取り組む。現名古屋医師会感染症対策理事。

久田 現在の新型コロナウイルス感染拡大をどのように捉えていますか？
森 すぐ目の前にある危機だと認識している。杉浦医院で、「熱が出た、家族に陽性者が出た。」という問い合わせが急増していて、家庭内感染が広がっていると感じている。繁華街での飲食店や高齢者施設の感染だけではなく、どなたでも身近にある危機になってきた。
久田 第2波での繁華街で接待を伴う飲食店や高齢者施設から感染が拡大をしていた状況から変わってきたわけですね。名古屋市の新規患者の接触歴別内訳（11月）を見ると、接触歴不明が48.9%、2番目に多いのが家庭内17.9%と本市全体にも同様のことが言えそうです。次に、現在のPCR検査についてご意見お聞かせ下さい。
森 保健センターのPCR検査の実施基準が厳しいと思う。濃厚接触者であればPCR検査を受けられるが、濃厚接触者の対象基準も厳しい。
久田 濃厚接触者の対象基準は感染者と1m程度範囲内で15分以上接触があった場合に該当することになっていますね（厚生労働省引用）。
森 じゃあ2mではダメなのか、感染者と一日中一緒に過ごした場合は感染しないのかと言えば、そんなことはない。濃厚接触者の基準が厳しく、対象外とされた方が受診に来られ、PCR検査をすると陽性であることが多い。濃厚接触者の対象を広げ、必要な方にPCR検査を受けられるようにした方がよい。
久田 感染拡大予防の観点からも、柔軟にPCR検査を行えるようにしなければいけないと思います。それと、新型コロナウイルス感染症に罹患された場合、どういう治療を行いますか？
森 新型コロナウイルス感染症はウイルス疾患ですので、ウイルスを減らすための治療を行います。

久田 なるほど。軽症者と重症者では治療法は違うのですか？
森 無症状から軽症であれば治療は必要ありません。熱に対して解熱鎮痛剤を使用する程度の対処療法で良いです。中等症になると酸素不足となるため、酸素吸入が必要になります。ウイルス量が減っていくのをただ待てば良いことになります。それ以上の重症になると入院による人工呼吸器や人工心肺が必要な状態となりその場合には、ステロイド材の投与が有効となります。重症になると全身の血栓ができやすくなるので、呼吸管理とともに血栓の管理が必要となります。
久田 治療法は確立してきたということでしょうか？
森 基本的に現在治療法は確立されておられません。新型コロナウイルスに対する対応法がわかってきたという状況です。やはり、感染予防が重要です。少しの油断によって、感染することはゼロではないから、特に、マスク着用・手洗い・うがい・換気・ソーシャルディスタンスなど「新しい生活様式」を守ってほしい。
久田 おっしゃる通りです。加えて、感染させないことを意識していかなければならないです。インフルエンザへの予防も重要ですね。
森 もちろん。しかし、インフルエンザウイルスは海外から持ち込まれることが多く、海外渡航制限のある現在、インフルエンザ発症者が例年よりも少ない。昨年は同時期に、全国で47,200件の発生が、今年は63件でした（厚生労働省発表国内発生状況：11月30日～12月6日分）。昨年比でおよそ750分の1です。最後に、久田さんをお願い。新型コロナウイルス感染拡大が収束しないと、病床が足りなくなる恐れがある。早急にコロナ専用病院を作る必要がある。そのための医師や看護師などの医療従事者の確保も必要。議会からも強い働きかけをしてもらいたい。
久田 名古屋民主市議団一丸となって全力で取り組みします。
本日は、お忙しい中、ありがとうございました。



久田くにひろ（名古屋市長議員）

新型コロナ感染症対策を担う財政委員会に所属。
市民に寄り添うコロナ対策となるように活動中。

（対談日は12月10日）



新型コロナウイルス感染症かも？ 「まずはかかりつけの医者に相談」

自分が新型コロナウイルスに感染したかも？ と不安になった方はまずは医療機関か受診相談センターへご相談下さい

